

アキレス株式会社

(コード:5142 東証プライム上場)

2026年3月期 決算説明会

2026年6月8日

1. 構造改革×成長戦略で業績は大きく回復

- 事業組織再編を機に「選択と集中」を徹底
- 成長事業が業績を牽引、営業利益率も大幅改善
- シューズ事業の構造改革も着実に進展

2. 改善した収益力を、今期以降の成長につなげる

- 2026年3月期は上方修正後の予想を上回って着地
- 2027年3月期は不確実性を織り込み、慎重かつ堅実な計画を策定
- 成長投資の方針は維持

3. 高付加価値分野が成長を牽引、中期経営計画も順調に推移

- メディカル分野向けフィルム、半導体関連部材が力強く成長
- 中期経営計画は順調に推移
- 業績目標据え置きのもと、取り組みを加速

目次

Agenda

第1部	事業概要と収益力向上の取り組み	P.3
第2部	2026年3月期決算概要	P.14
第3部	2027年3月期業績見通し	P.22
第4部	財務・資本戦略	P.28

第1部

Section 1

事業概要と収益力向上の取り組み

1. 会社概要



社名	アキレス株式会社
----	----------

上場市場（証券コード）	東証プライム（5142）
-------------	--------------

設立	1947年5月
----	---------

資本金	146億円
-----	-------

代表者	代表取締役社長 日景一郎
-----	--------------

本社所在地	東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー
-------	---------------------------

事業内容	第一事業部 … レザー・カブロン・ラミネート、フィルム、ウレタン、工業資材 第二事業部 … 断熱資材、床材、壁材、防災関連製品、ゴム加工品 シューズBU … シューズ製品
------	---

主な国内拠点	関西支社、北海道営業所、九州営業所、足利工場、滋賀工場、美唄工場、九州工場
--------	---------------------------------------

主な海外拠点	米国ワシントン州、香港、上海、佛山、台湾
--------	----------------------

2. コアテクノロジー

多種多様な、「**膜**」をつくる。



当社はプラスチック加工技術を基盤とする多岐に亘る事業を展開しています。

「製膜」「発泡」「成型」という3つのコア技術をベースに多彩な要素技術を保有しています。これらを複合的に組み合わせることにより、さまざまな特性、形状の製品の製造が可能となります。

素材の中に、「**泡**」を取り込む。

樹脂を溶かして、「**型**」で固める。



この製品実現化技術が事業活動の基盤となり幅広い産業へ多様な製品群を投入しています。

3. 事業領域と主な製品

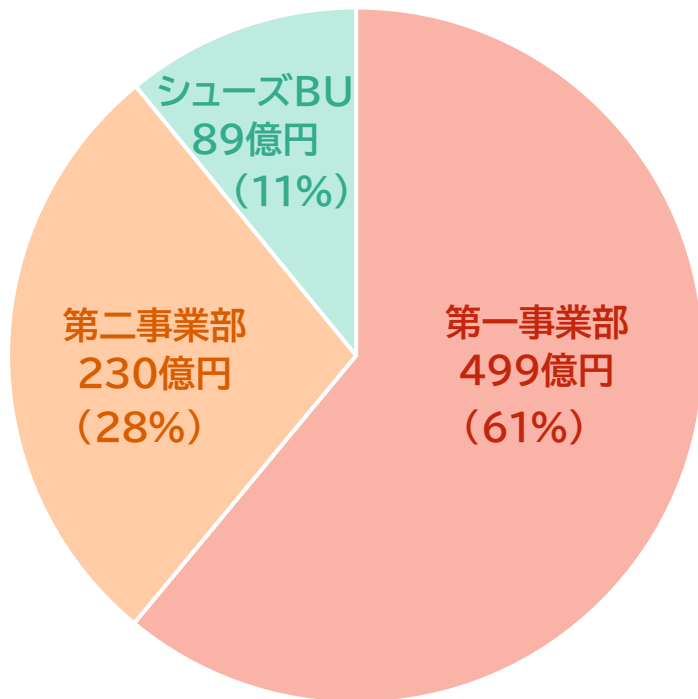
当社製品は日々の暮らしと幅広い産業を支え、いのちを守る現場へも価値を提供しています。

インフラ 社会の基盤を支える 道路、トンネル、橋梁、臨海などの補修工事 老朽化対策で、防災・減災に貢献	維持・補修工法(老朽化対策) 	製造・設備 製造のプロをサポート 多様なマテリアルおよび製品群で 製造現場の品質と安全性向上を実現	間仕切りカーテン用フィルム 大型成型品	インテリア・生活 毎日を、快適に 高機能な内装材、寝具、インテリア製品で、 新たなライフスタイルを提案	住宅用内装材 寝具(ベッド用マットレス)
建築・土木 人と地球にやさしく 地球環境に配慮した断熱材 住宅用材で、快適な生活空間を創造	建築用断熱材 景観資材 	電機・電子 エレクトロニクスに貢献 電機・電子機器や医療・分析機器などの 精密機械の製造を支える	ウェア搬送/保護関連製品 	医療・防災 いのちをつなぐ 防災・医療用テントからレスキューボート、避難所支援まで 一人ひとりに大きな安心を	メディカル分野向けフィルム (イメージ) エアータント
農・畜・水産 収穫の喜びを、もっと 生産に最適な環境を作り 地球環境にも配慮した製品群で生産者をサポート	生分解性フィルム 	車輦 快適性と安全性の双方を追求 確かなクオリティの内装材を、 自動車、鉄道、航空機まで幅広く展開	車輦用内装資材 	スポーツ・レジャー 健やか、そして楽しい暮らしを スポーツシューズやレジャー用ボートなど、 「楽しさ」と「健康」を支える製品を提供	シューズ マリンボート

4. 事業セグメント別売上高

2026年3月期実績

連結売上高818億円



【ご参考】 2026年3月期より新セグメントへ移行

新区分	BU	主な製品
第一事業部	車輛資材	車輛内装用資材、家具用資材
	化成品	機能性フィルム、農業用資材
	ウレタン	軟質ウレタンフォーム
	工業資材	静電気対策製品(半導体関連)
第二事業部	断熱資材	断熱用硬質ウレタンボード
	建装	建設・住宅内装材(壁紙、床材)
	防災	エアーテント、レスキューボート
シューズBU	シューズ	瞬足、アキレス・ソルボ、BROOKS

BU:ビジネスユニット

5. 中期経営計画(FY25～FY27)の概要



～FY24【回復期】

- ・コスト上昇への適時対応
- ・選択と集中の一環としてシューズ事業の国内生産終了を決定

FY25～FY27【再構築・強化期】

- ・3つの全社戦略で収益力を向上
 - ① 選択と集中の徹底
事業の位置づけに応じた経営資源の最適配分
 - ② 新たな価値の創造
アイデアでテクノロジーを掛け合わせた価値創造
 - ③ グローバル戦略の推進
グループ・テクノロジーによるソリューションの水平展開

～FY30【拡大期】

- ・重点分野に向けた研究開発、アライアンスを通じテクノロジーやソリューションを深化
- ・アキレスならではのユニークなアイデアで、ソリューションを多様な分野に拡大
- ・グローバル・ソリューション・パートナーシップで海外展開を加速

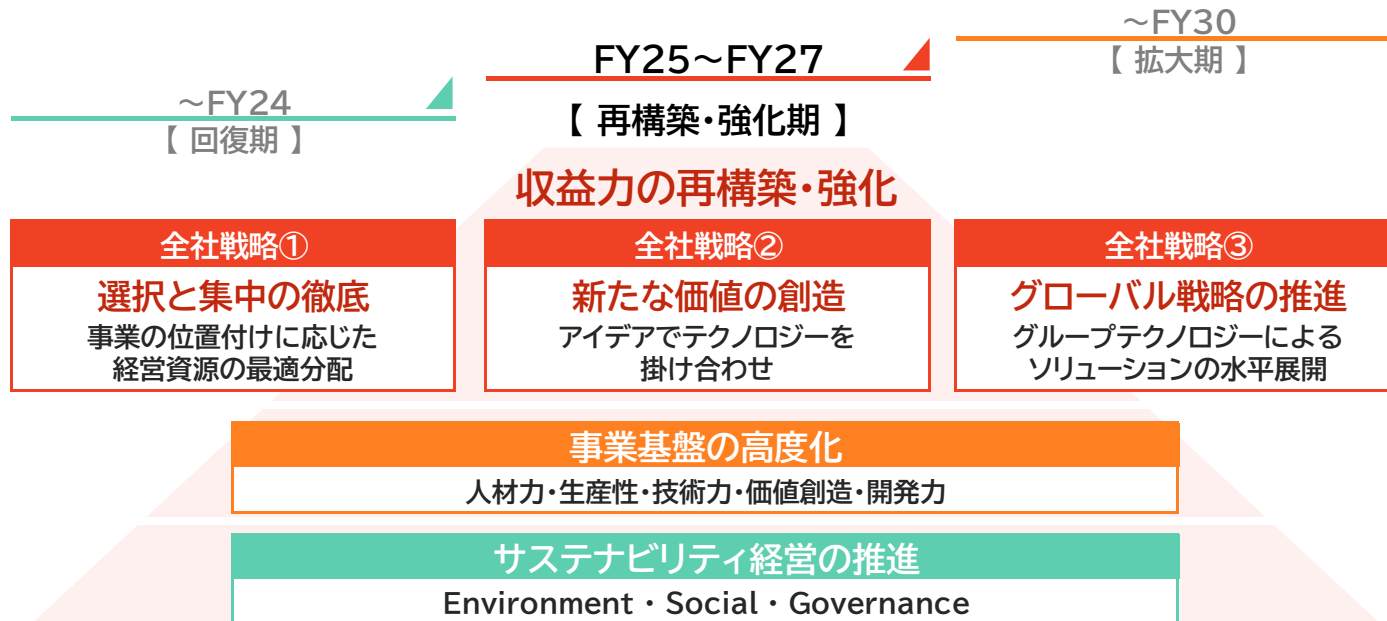
2030年度に目指す姿 「Vision2030」

	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期 予想	2028年3月期 計画	2031年3月期 イメージ
売上高	790 億円	818 億円	825 億円	880 億円	1,000 億円規模
(海外売上高)	(172 億円)	(214 億円)	—	(220 億円)	(300 億円規模)
営業利益	△4 億円	29 億円	22 億円	30 億円	50 億円規模
営業利益率	△0.6%	3.6 %	2.7 %	3.4 %	5.0 %水準
ROE	1.1 %	5.1 %	—	5.0 %以上	7.0 %以上

6. 中期経営計画の位置づけ

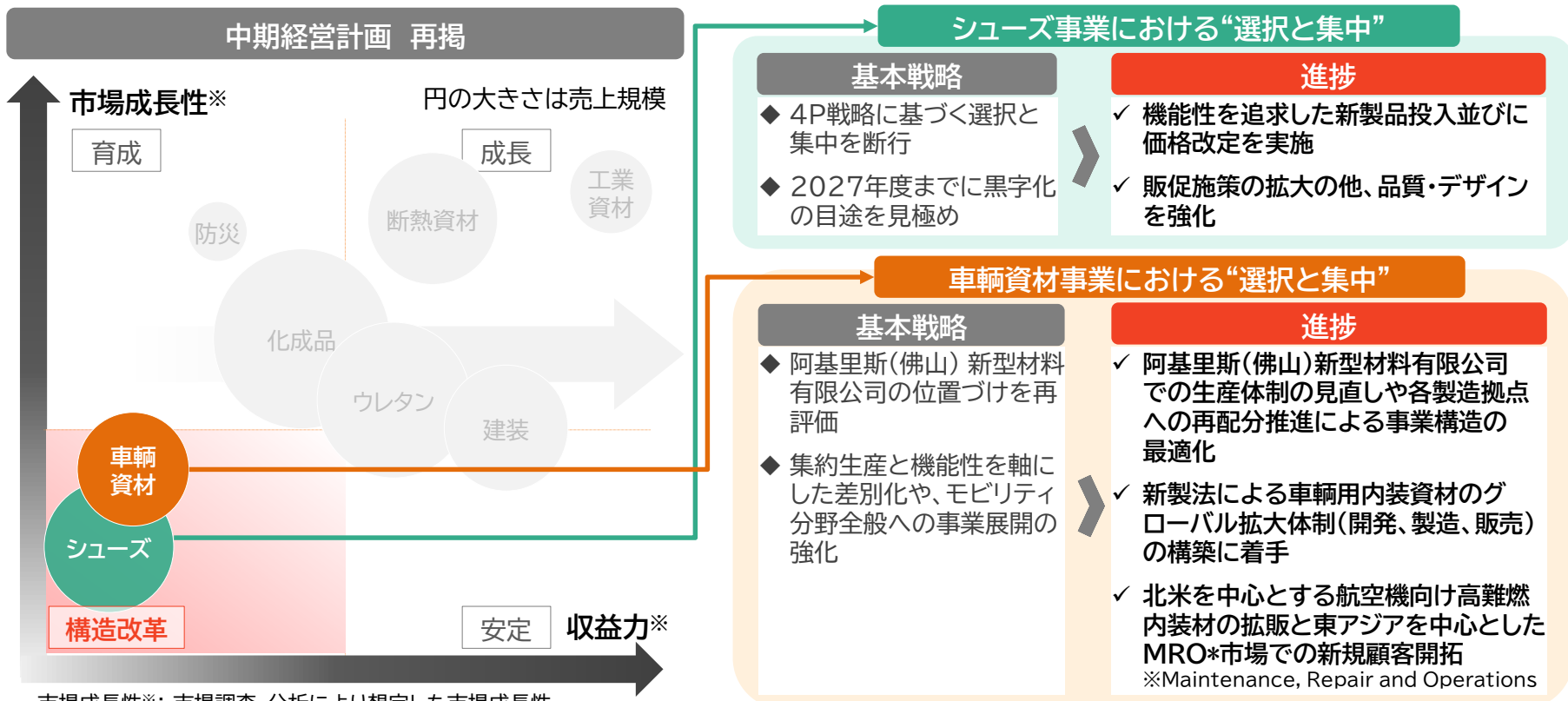
2030年度に目指す姿(Vision2030)

アキレスグループは、社員一人ひとりの好奇心、多様な能力、ユニークなアイデア、ひらめきを大切にし、様々なテクノロジーを組み合わせたソリューションで社会に貢献する世界に、驚き・喜び・感動を提供し、人々の生活を豊かにする『グローバル ソリューション プロバイダー』を目指す



7. 全社戦略① 選択と集中の徹底

◆ 構造改革が必要なシューズ事業と車輻資材事業について、選択と集中に向けた重点施策を引き続き推進する



市場成長性※：市場調査・分析により想定した市場成長性
収益力※：2024年度の営業利益率

8. 全社戦略② 新たな価値の創造

- ◆ アイデアでテクノロジーを掛け合わせ新たな価値を創造するために、2025年6月に事業組織を再編した
- ◆ 更なるシナジー創出に向けて、横断連携を起点に重点分野へのアプローチを推進する

2025年6月再編

新事業組織

シナジー効果を生み出す事業組織に再編

車輜資材事業部	化成品事業部	建装事業部	防災事業部	ウレタン事業部	断熱資材事業部	工業資材事業部	シューズ事業部	
●	●			●		●		第一事業部
		●	●		●			第二事業部
							●	シューズBU※

※ ビジネスユニット

1

連携基盤の構築

■部門・拠点間連携の強化

- 自社事業理解の再徹底を志向したグローバル拠点を含めた事業説明会の開催

■製販連携の強化

- 製販横断ワーキンググループ活動の推進

横断連携を起点とした
シナジー創出を推進

2

顧客接点の共有

■営業ツールの最適化

- 営業DXワーキンググループでの導入企画推進

■部門間協力の強化

- 国内外展示会への出展と顧客説明会、施工・防災体験会の実施

3

新製品開発の推進

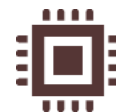
■部門横断活動の推進

- 防災事業における新製品開発等

■シナジーによる新製品開発の活性化

- 社員用アイデアスペースの新設企画(26年度実施予定)

重点分野



エレクトロニクス



モビリティ



メディカル
&ヘルスケア



コンストラクション
&インフラ



セーフティ
・アクティビティ

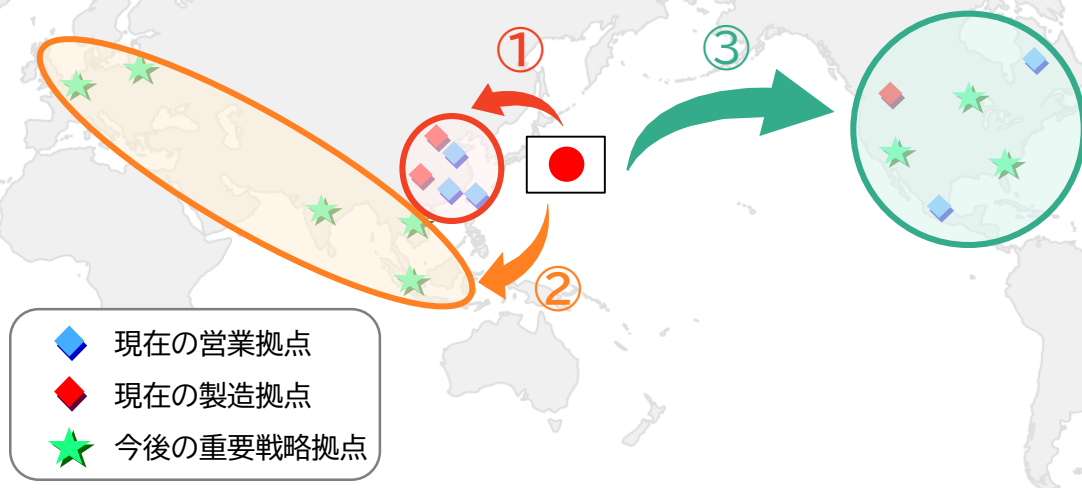
9. 全社戦略③ グローバル戦略の推進

- ◆ 地政学的リスクや貿易環境の変化等を背景とした各国需要の変動性の高まりに対応すべく、製販両面での連携強化を図る

2024年度
海外売上高
172億円

➤

2025年度
海外売上高
214億円



①－ 東アジアエリア －

- ✓医薬品製造プロセス用資材でのアライアンス開始
- ✓自動車内装用レザー新製法確立とスパックイン活動開始
- ✓アキレス・ソルボの香港出店、台湾拡販強化によるブランド認知推進

②－ 東南～西アジア・欧州エリア －

- ✓アジア半導体事業基盤拡充のための拠点整備活動の推進
- ✓データセンター向け資材事業の拡大に向けた活動の推進（データセンターワールドアジア出展）
- ✓欧州エリアにおけるレジャーボート用素材のシェア拡大に向けた取り組みの推進

③－ 北中米エリア －

- ✓北米拠点でのメディカル分野向け設備の2026年本格稼働
- ✓自動車用内装材の現地生産に向けた連携強化
- ✓セーフティ・アクティビティ分野における販売体制、及び供給体制の再構築を推進
- ✓生成AI・データセンター関連需要を捉えた半導体メーカーとの取引強化、メガテック企業との取り組み開始
- ✓メキシコ拠点の営業活動開始

10. 事業基盤の高度化とサステナビリティ経営

事業基盤高度化のためグループ全体を俯瞰して改善を促す部署を新設

生産ソリューション本部

全社最適視点で生産管理を実行

- ・生産プロセスの最適化、自動化、DX
- ・コスト削減、原価低減
- ・工場間の垣根を超えたフレキシブルで柔軟な生産体制の確立

イノベーション技術本部

製造部門横断で生産革新を推進

- ・生産DXや技術開発、海外生産支援などを全社横断的に推進
- ・競争力、生産性、柔軟性、持続可能性の向上を軸とする活動を展開

人事総務本部・オフィスセンター

人的資本経営の中核を担う

- ・人材基盤の拡充
- ・従業員一人ひとりが働きがいを実感できる環境整備
- ・規律と安全面の管理体制の高度化

サステナビリティ経営における主要な取り組み

環境(E)

- ・温室効果ガス排出量の削減
- ・環境配慮型製品の拡充

社会(S)

- ・人権デューデリジェンスの推進
- ・社会課題解決型製品の拡充

企業統治(G)

- ・IR・経営企画本部の設置
- ・ガバナンス委員会の継続実施

第2部

Section 2

2026年3月期決算概要

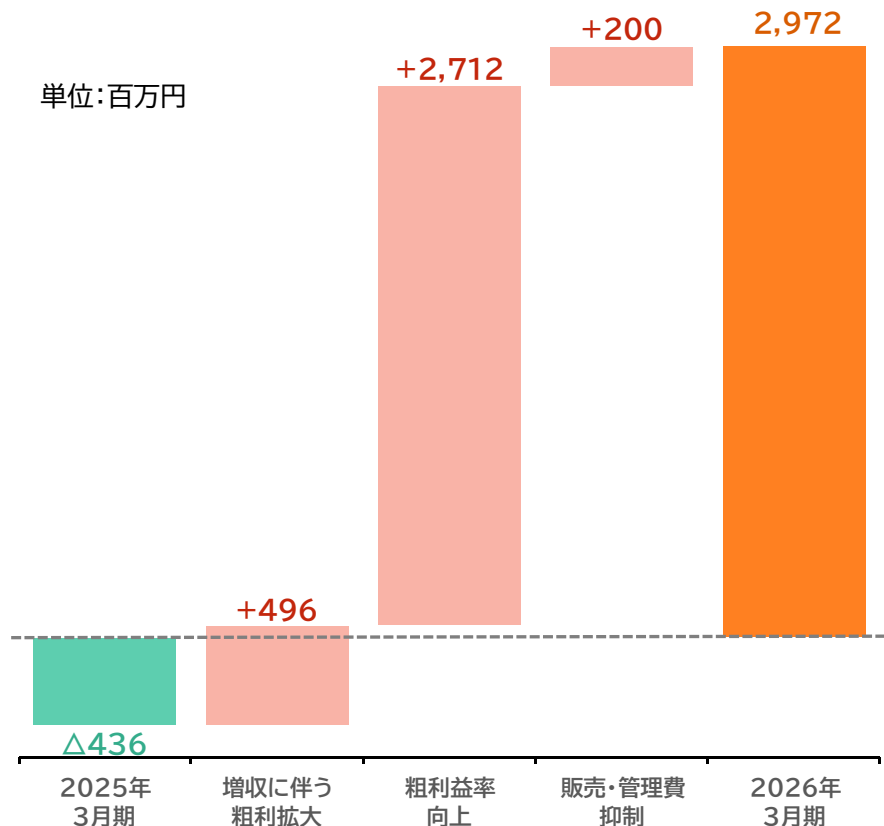
11. 2026年3月期連結決算サマリー



(百万円)	2025年3月期		2026年3月期		増減額	増減率	2026年3月期計画 (2月9日修正)	増減額
	金額	売上高比	金額	売上高比			金額	
売上高	79,093	100.0%	81,802	100.0%	2,709	3.4%	81,000	802
売上総利益	14,484	18.3%	17,692	21.6%	3,208	22.2%	-	-
販売費および一般管理費	14,920	18.9%	14,719	18.0%	△200	△1.3%	-	-
営業利益(△損失)	△436	△0.6%	2,972	3.6%	3,409	-	2,300	672
経常利益(△損失)	△220	△0.3%	3,919	4.8%	4,140	-	2,550	1,369
親会社株主に帰属する 当期純利益	427	0.5%	2,116	2.6%	1,688	394.7%	1,450	666
1株当たり純利益(EPS)	30.67 円		154.87 円		124.20 円	405.0%	106.10 円	-
ROE	1.1 %		5.1 %		4.0%pt		-	-

12. 営業利益の増減要因分析

単位:百万円



【増益要因】

増収に伴う粗利拡大・・・+4億円

- ✓ フィルムのメディカル分野向けとエレクトロニクス分野向けの増収
- ✓ 工業資材の半導体ウエハー搬送用及び製造工程用部材の増収

粗利益率向上・・・+27億円

- ✓ 収益性の高いメディカル分野向けフィルム、工業資材の増収に伴い売上総利益が増加
- ✓ 製造現場における集約生産等を通じた原価低減活動

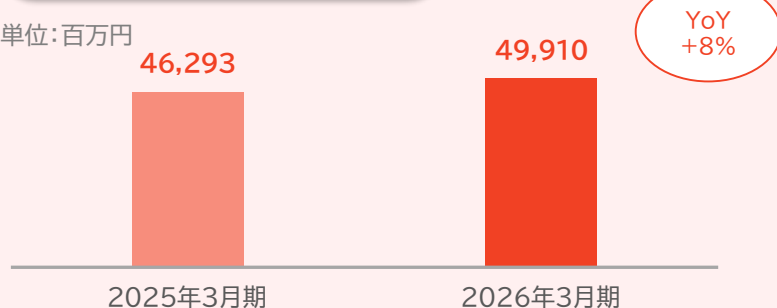
販売・管理費抑制・・・+2億円

- ✓ 運送・保管費など全社的な経費抑制

13. 第一事業部の決算概要

売上高

単位:百万円



高機能フィルムや半導体関連が増収を牽引

- ✓ フィルムのメディカル分野向けとエレクトロニクス分野向け、工業資材の半導体ウエハー搬送用及び製造工程用部材が伸長
- ✓ 車輻資材の自動車向けとウレタンの寝具向けが減少

セグメント損益・率

単位:百万円



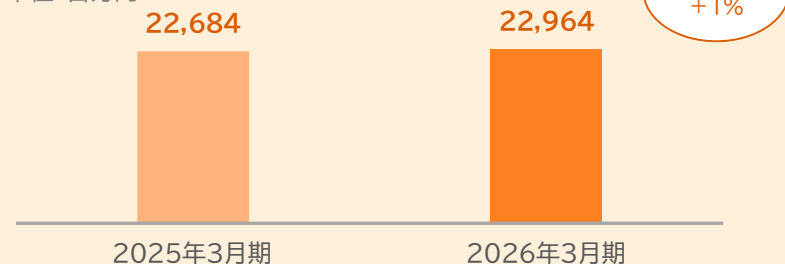
好採算分野の増収と原価低減が増益寄与

- ✓ 収益性の高いメディカル分野向けフィルム及び工業資材の増収に伴い売上総利益が増加
- ✓ 製造現場における集約生産等を通じた一層の原価低減活動による原価率改善も増益へ貢献

14. 第二事業部の決算概要

売上高

単位: 百万円

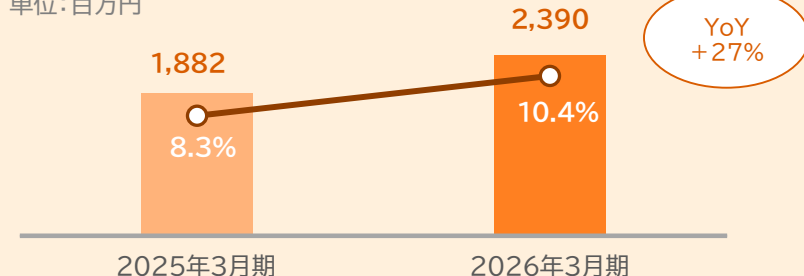


販売増に加え価格改定も寄与

- ✓ 断熱資材のボード製品が非住宅分野で堅調に推移
- ✓ 国内でのテント・マットなどの防災製品なども好調に推移
- ✓ 建装資材の販売価格の改定などにより増収

セグメント損益・率

単位: 百万円



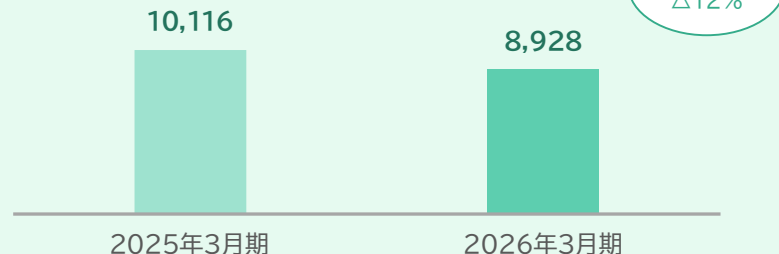
売上総利益の増加が増益寄与

- ✓ 断熱資材及び建装資材の増収に伴う売上総利益の増加が貢献

15. シューズビジネスユニットの決算概要

売上高

単位: 百万円

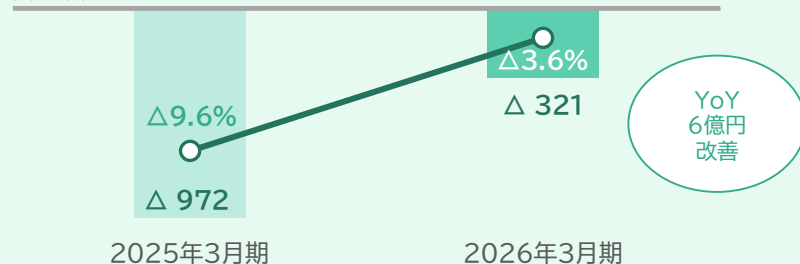


市場環境悪化、価格改定影響等で減収

- ✓ 主力ブランドにおいて、機能性を追求した新製品投入並びに価格改定を実施
- ✓ 消費者物価の上昇に伴う市場環境の悪化や価格改定の影響等により減収

セグメント損益・率

単位: 百万円



価格改定やコスト低減活動の効果で大幅改善

- ✓ コスト環境の変化に対応した価格改定が寄与
- ✓ 調達コストの見直し及び経費削減など一層のコストダウン活動を推進

16. キャッシュ・フロー計算書

(百万円)	2025年 3月期	2026年 3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,686	2,639	△46
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,918	△2,862	△943
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,246	2,146	3,392
現金及び現金同等物に係る換算差額	346	102	△243
現金及び現金同等物増減額(△は減少)	△131	2,027	2,158
現金及び現金同等物の期首残高	6,851	6,719	△131
現金及び現金同等物の期末残高	6,719	8,746	2,027

- ◆ 営業キャッシュ・フローは、前期より微減の26億円。取適法対応に伴う仕入債務の減少(仕入債務の減少39億円の内、取適法対応20億円)
- ◆ 投資キャッシュ・フローは、前期より約9億円支出が拡大し、△28億円。生産設備等の固定資産の取得等による
- ◆ 財務キャッシュ・フローは、前期より約34億円増加し、21億円。取適法対応のための借入金調達による

17. 貸借対照表

(百万円)	2025年 3月期	2026年 3月期	増減額
流動資産	45,720	46,645	925
固定資産	33,784	36,982	3,198
資産合計	79,504	83,628	4,123
流動負債	29,161	22,501	△6,659
固定負債	11,006	17,843	6,836
負債合計	40,168	40,345	176
純資産合計	39,336	43,282	3,946
負債・純資産合計	79,504	83,628	4,123
一株当たり純資産(円)	2,878.2 円	3,167.2 円	
自己資本比率	49.5 %	51.8 %	

- ◆ 純資産は前期より39億円増加。利益剰余金が18億円増えたことに加え、退職給付に係る調整累計額が13億円、その他有価証券差額金が11億円増加したことによる
- ◆ 上記に伴い、自己資本比率は51.8%と前期より2.3ポイント向上した

第3部

Section 3

2027年3月期業績見通し

18. 2027年3月期連結業績見通しサマリー

(百万円)	2026年 3月期 実績	2027年 3月期 予想	増減率	2028年 3月期 計画
売上高	81,802	82,500	0.9%	88,000
営業利益	2,972	2,200	△26.0%	3,000
経常利益	3,919	2,000	△49.0%	---
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,116	1,300	△38.6%	---

1株当たり純利益 (EPS)	154.87 円	95.13 円	△38.6%
1株当たり配当金 (DPS)	40.00 円	30.00 円	△25.0%

- ◆ 売上高は、重点分野であるフィルム
のメディカル分野及び工業資材のエ
レクトロニクス(半導体関連)分野を
中心に伸長が続くと見込む
- ◆ 利益面の見通しについては、原材料
価格や為替、地政学リスクなど事業
環境の不確実性の高まりを踏まえ、
慎重かつ堅実な計画を策定
- ◆ 中期経営計画は順調に推移している
認識のもと、当初方針通り人的資本
経営やDX推進など事業基盤強化へ
の積極投資を織り込む

※ 中東情勢の緊迫化による直接的影響は、現時点で合理的に算定することが困難で
あり業績予想には織り込んでおりません。

19. 設備投資/減価償却費/研究開発費の計画

(百万円)

設備投資



(百万円)

減価償却費



(百万円)

研究開発費



- ◆ 2027年3月期における設備投資は前期比2.3倍となる58億円を見込む
- ◆ 米国子会社のメディカル分野向けフィルム事業に約19億円の製造設備を導入し、本格稼働する



米国で高性能フィルムを製造する
ACHILLES USA, INC.
(Head Office)

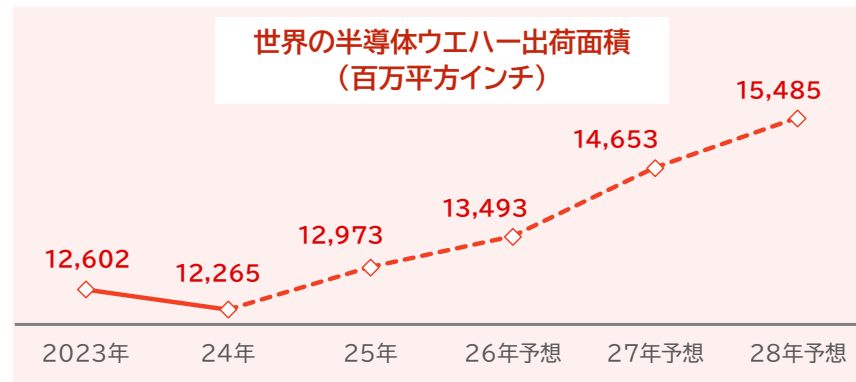


20. 半導体関連資材の成長可能性



半導体搬送用部材(容器、スペーサー、クッション等)需要拡大

- ✓ 半導体ウエハー用搬送容器はメモリ半導体出荷用途で世界シェア40%(当社推定)。静電・クリーン技術や素材のコントロール技術を強みに、26年3月期は好調に推移した
- ✓ 「静電気」の影響によるICチップの不具合を防止する当社独自の導電加工技術「STポリ」を用いた搬送トレーの引き合いも増えている
- ✓ 生成AI関連半導体の需要拡大が続く中で、中長期的な事業拡大が期待される



※ 民間調査会社データなどを基に当社推定

21. メディカル分野向けフィルムの成長可能性

メディカル分野向けフィルム



メディカル分野向けフィルムの加工例（イメージ）



メディカル分野向けフィルムの事業拡大

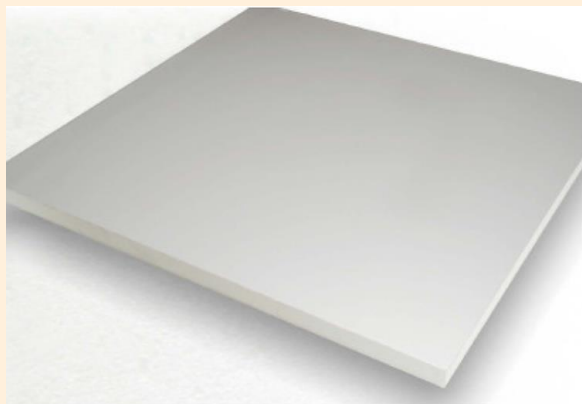
- ✓ メディカル分野向けフィルムはシングルユース（使い切り）製品用途で採用。26年3月期は海外バイオ医薬関連企業の受注が増加、好調に推移
- ✓ 同製品は抗体医薬品やワクチンなどのバイオ医療品製造の様々な工程で用いられ、洗浄や滅菌工程の時間短縮と、開発・生産コストの低減に貢献。今後も伸長が期待される
- ✓ 米国拠点の生産ライン増強に加え、国内においても大手商社と連携し、更に販売拡大を目指す

世界のバイオ医薬品市場規模
（億米ドル）



※ 民間調査会社データなどを基に当社推定

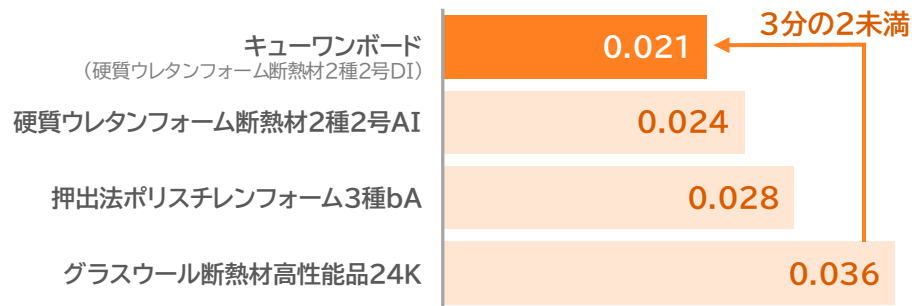
22. 高性能断熱資材の成長可能性



高性能硬質ウレタンフォーム断熱材「キューワンボード」。面材には遮熱性能に優れた赤外線高反射アルミ箔を採用し省エネ効果を狙う

熱伝導率の比較

単位:W/(m・k)

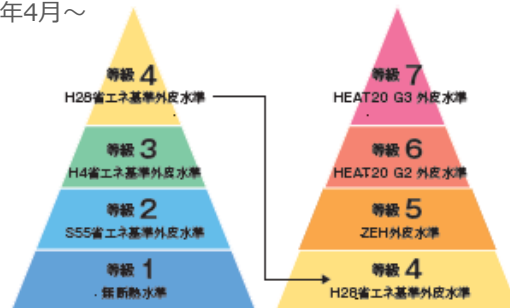


高性能断熱材で省エネ需要の掘り起こしを狙う

- ✓ 2050年カーボンニュートラルの実現に向け、住宅の省エネ基準が義務化された(下図)。政府のZEH支援策も追い風に高性能なウレタン系断熱材の需要拡大が見込まれる
- ✓ 当社は国内で初めて硬質ウレタンボードを開発し、市場での地位確立。面材に高反射アルミ箔を採用した高性能断熱材は、省エネ以外に熱中症やヒートショック対策といった健康面からの需要も高まっている
- ✓ 住宅リフォーム市場への展開や、工場、商業・物流施設など非住宅でのニーズ掘り起こしも進める

■省エネ基準適合義務化以降の等級イメージ

2025年4月～



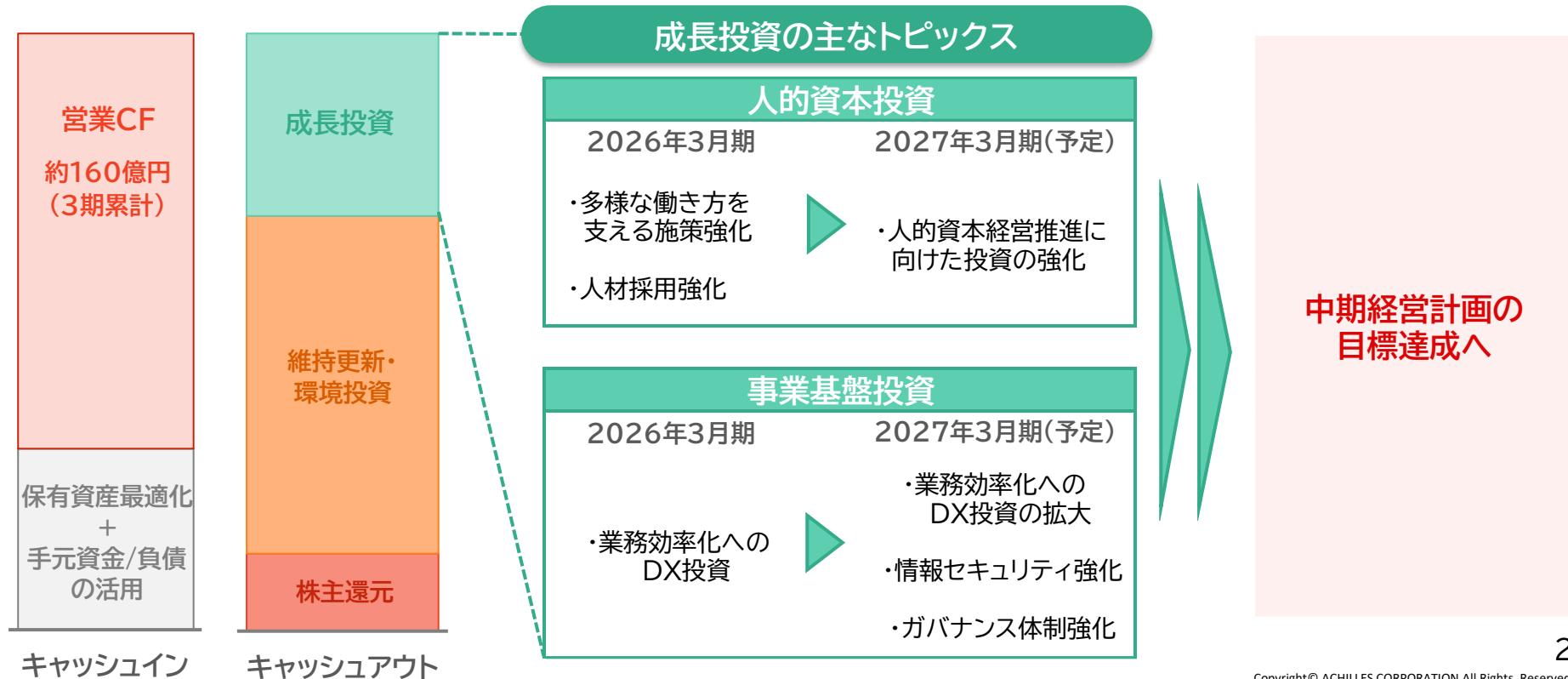
第4部

Section 4

財務・資本戦略

23. キャピタルアロケーション戦略

手元資金は成長投資と株主還元へ最適配分。投資では人的資本投資を優先的に実施する



24. 株主還元の基本方針

株主還元の基本方針

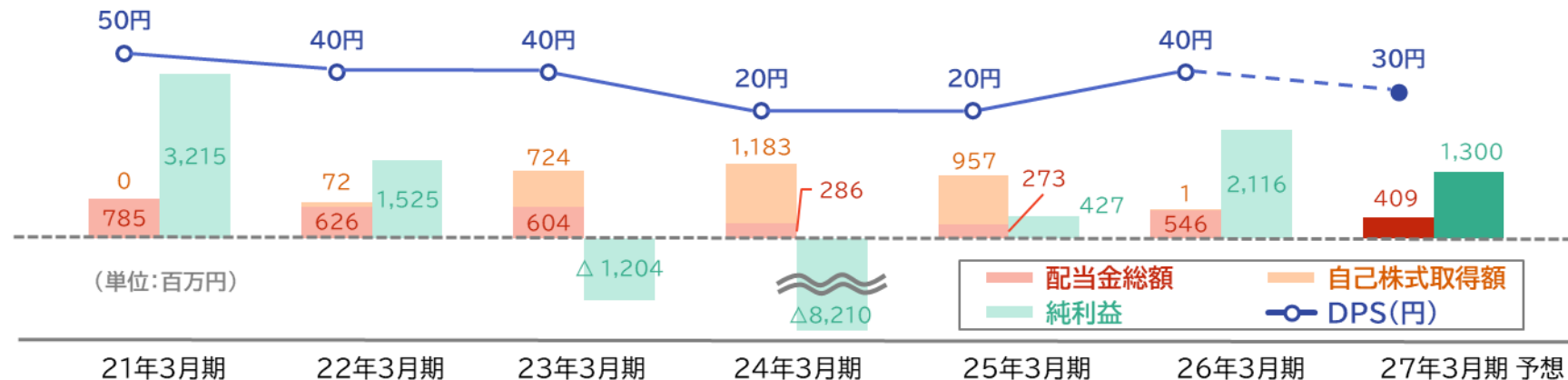
継続的、安定的な配当を基本としつつ、自己株式の取得も機動的に実施し、総合的な株主還元の充実を図る

✓ 配当の実施

直近の経営状況を踏まえ、①配当性向30%以上、②1株当たり配当金(DPS)50円、を意識した配当を行う

✓ 自己株式の取得

連結業績や成長投資、株価の状況等を総合的に勘案しながら柔軟に実施する



本資料は、アキレス株式会社(以下「当社」)の経営方針、事業内容および業績等に関する情報の提供のみを目的として作成されたものであり、当社株式への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に記載されている将来予想および見通しに関する記述は、資料作成時点において当社が入手可能な情報および合理的と判断した前提に基づいておりますが、様々なリスクや不確実性を内包しており、実際の業績等はこれらの見通しと大きく異なる可能性があります。

本資料の内容については万全を期しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。本資料の利用により生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

IRに関するお問い合わせ先

アキレス株式会社 IR・経営企画本部

URL <https://www.achilles.jp/contact/iri/>

あなたの身近にいつも…アキレス

